

西堀榮三郎記念探検の殿堂

南極の技術

—私たちの暮らしとのつながり

通信技術の発展と活用～第一次越冬・作間敏夫隊員に捧ぐ～



パラボラアンテナを保護するレドーム（右）（国立極地研究所提供）

会期 令和2年7月4日（土）～9月6日（日）

場所 西堀榮三郎記念探検の殿堂 2階 資料展示コーナー

開館時間 10:00～18:00（入館は17:30まで）

休館日 月・火曜日、国民の祝日

“CQ、CQ、CQ、JA, こちらは JA1JG——”

今から 63 年前の 1957 年 6 月 16 日、南極からの電波が日本のアマチュア無線家のもとへ届きました。

無線の発信者は作間敏夫^{さくまとしお}。戦後日本にとっての一大事業であった南極第一次越冬隊員として通信を担当した人物です。日本の南極観測が始まって 63 年が経ち、観測隊は 61 次を数えるまでになりました。

日本から遠く離れた南極の地で生活する観測隊員たちですが、その生活の中には日本の私たちの生活と共通するものが数多くあります。

今回は、通信技術の発展の歴史と、さらに、私たちの暮らしとのつながりに目を向けた展示を行います。

2020 年 12 月の三回忌にあたり、越冬に必須の最後の条件を達成した作間敏夫隊員に捧げます。



協力: 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所、佐々木 貴美 (第 61 次南極地域観測隊)、小林 正幸 (南極 OB 会)、株式会社ナガラ電子工業、G-G-のサイエンス倶楽部

国立極地研究所提供

展示のご案内

学ぶ

南極の通信技術の
発展を年表で学ぼう！

- ◆第 61 次隊で南極の通信を支えている女性隊員・佐々木さんへのインタビュー



佐々木 貴美さん
(国立極地研究所提供)

- ◆資料展示



アマチュア無線交信カード

遊ぶ

モールス解読クイズなどの
クイズをご用意！

- ◆モールス信号が打てる電鍵体験！
- ◆無線機の電波でホタルを光らせよう！



無線ホタル

電鍵

無線機

西堀榮三郎記念探検の殿堂 〒527-0135 滋賀県東近江市横溝町 419 番地

PIONEER CITY
東近江イズム
HIGASHIOMISM

【開館時間】10:00 ~ 18:00(入館は 17:30 まで)
【休館日】月・火曜日、国民の祝日
【入館料】大人 300 円(250 円) 小人 150 円(120 円)
※()内は 20 名以上の団体料金
東近江市在住の方・障害者およびその引率者は無料
【TEL】0749-45-0011 【FAX】0749-45-3556

